

2020年3月期 第1四半期 決算の概要

2019年8月1日
日本ユニシス株式会社

Foresight in sight

前期より引き続きDX関連等のサービス拡大と、製品販売大型案件が寄与し大幅増収
増収効果から営業利益は前年同期比で倍増

(単位：億円)

	第1四半期(4-6月)		前年同期比 増減	
	2020/3期	2019/3期		
売上高	652	570	+81	+14.2%
売上総利益	157	140	+17	+12.4%
販管費	▲127	▲125	▲1	▲1.0%
営業利益	31	15	+16	+109.8%
(営業利益率)	(4.7%)	(2.6%)		(+2.2pt)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	26	14	+12	+87.6%
受注高	676	607	+68	+11.3%
受注残高	2,290	2,244	+46	+2.0%

<1Q決算のポイント>

- 売上高
システムサービスおよび製品販売が牽引し大幅増収。
- 営業利益
サービスの増収効果と生産性の向上を主因として売上総利益が増加。販管費の増加を吸収し、営業利益は前年同期比倍増。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益
営業増益に伴い前年同期比+88%増益。
- 受注高・受注残高
受注高はシステムサービスと製品を中心に拡大。受注残高もシステムサービスでの積み上がりが大きく堅調に推移。

【ご参考】1Q(4-6月)の売上高、営業利益、純利益の5カ年推移 (単位：億円)



これより、2020年3月期第1四半期の決算概要について、ご説明申し上げます。
資料の1ページをご覧ください。

第1四半期の業績は、売上高は前年同期比+81億円増収の652億円、
営業利益は前年同期比+16億円増益の31億円、
四半期純利益は前年同期比+12億円増益の26億円となりました。

売上高は、システムサービスおよび製品販売が伸長し前年同期比+81億円の
増収となりました。

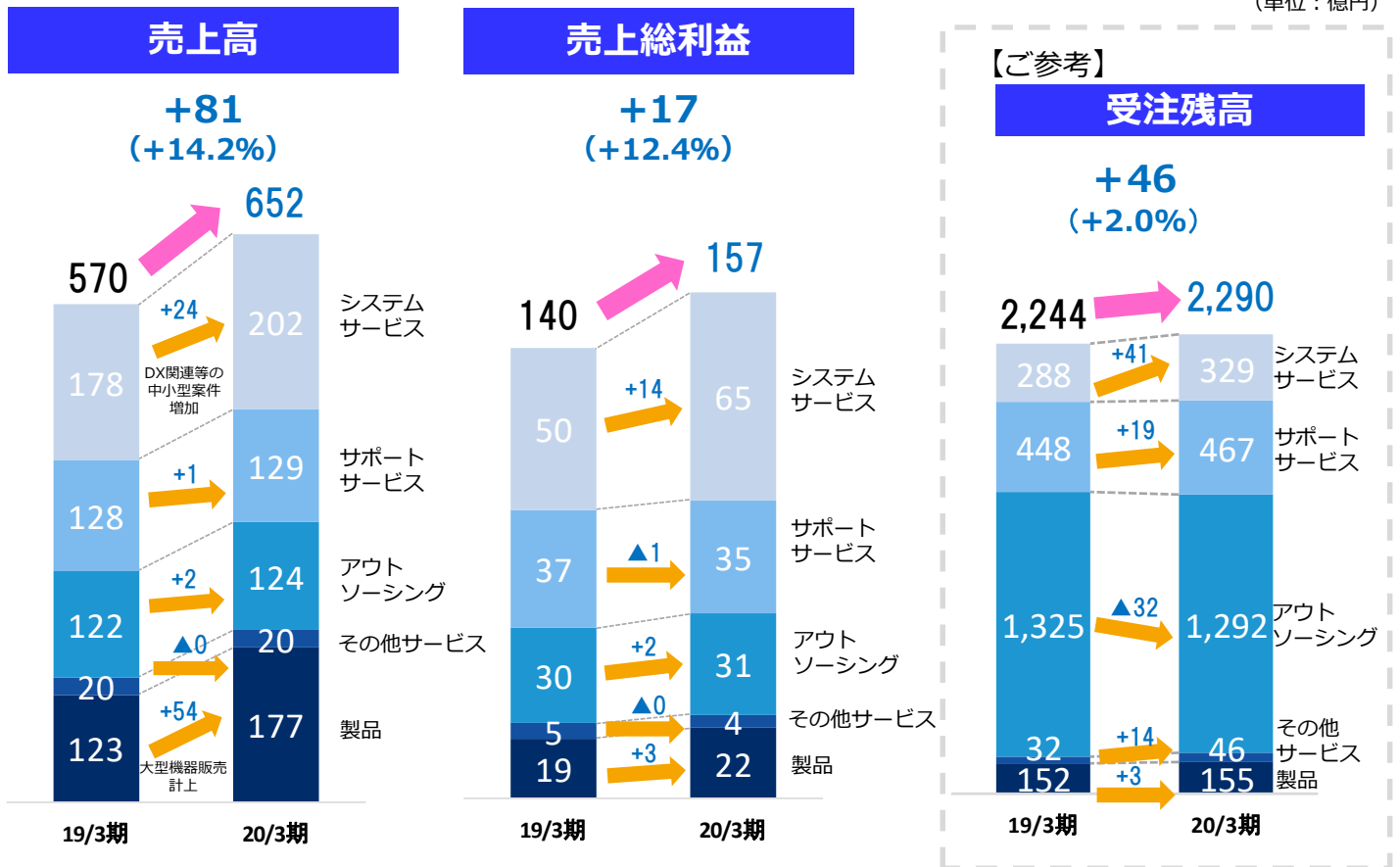
利益面では、システムサービスなどの増収に伴い、売上総利益が前年同期比
+17億円の増益となり、販管費は人件費および研究開発費が増加する一方で、
営業支援費が減少したことなどから、前年同期比で若干の増加にとどまった結果、
営業利益は前年同期比+16億円の増益となりました。

なお、四半期純利益は営業増益に伴い、前年同期比+12億円の増益となっております。

続きまして受注高につきましては、システムサービスにおける中小型案件の積み
上げおよび製品販売案件の増加などにより、前年同期比+68億円増加の676億円と
なりました。

受注残高につきましても、システムサービスでの積み上がりが大きく、前年同期比
+46億円増加の2,290億円となっております。

(単位：億円)



続きまして、セグメント別の状況について説明いたします。
資料の2ページをご覧ください。

システムサービスは、前期より引き続き、DX関連などで中小型案件が積み上がり収益性が向上しているほか、金融・流通・サービス業向けなど幅広い業種においてシステム更改案件が進行中であることから、増収・増益となっております。

なお、当第1四半期において、新たに発生した不採算案件はありません。

昨年より継続中の不採算案件（1件）については、2019年秋口のカットオーバーに向け、昨年度引当を行った範囲内でのコスト費消で、テスト工程が進捗しております。

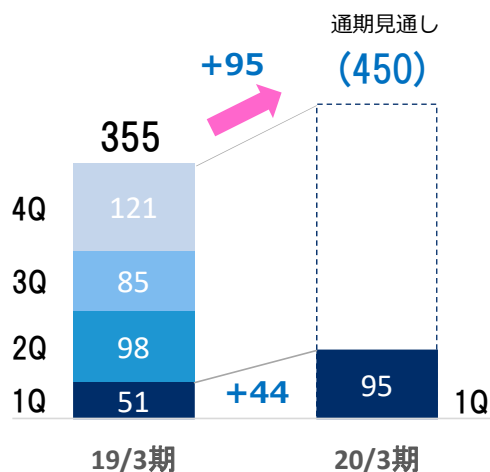
サポートサービスは、小口契約が安定的に推移していることに加え、複数年にわたる新規契約の開始もあったことなどから若干の増収となりました。

売上総利益は若干の減益となっておりますが、前期に開始したサポート拠点の統廃合は計画通り進行中であり、引き続きコストコントロールに取り組むことで、収益性の維持を図ってまいります。

アウトソーシングは、当第1四半期においては、ICTコア領域の新規開始大型案件が無かったこともあり、若干の増収・増益にとどまりました。

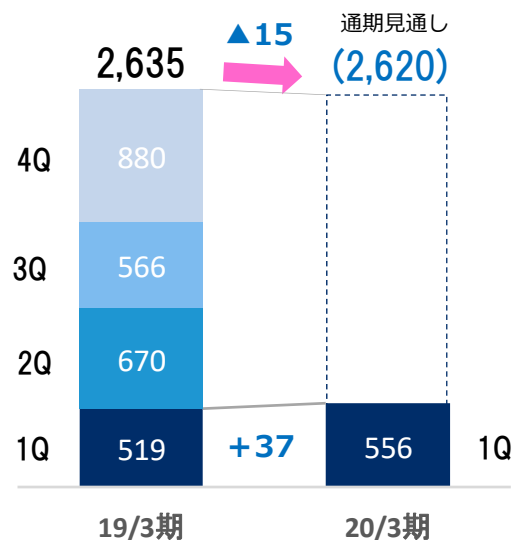
製品は、前期末の受注残高に計上されていたAI関連の大型機器販売案件がリアライズしたことから、大幅な増収となりました。

注力領域 売上高



- ・QR・バーコード決済手数料収入増加
- ・MaaSプラットフォーム利用拡大
- ・前期4Qに引き続きAI関連の大型機器販売案件を計上

ICTコア領域 売上高



- ・BankVision®11行目テスト工程継続中
- ・幅広い業種向けにシステム更改案件が堅調
- ・子会社におけるシステム基盤関連機器販売が増加

続きまして、中期経営計画における注力領域のビジネス状況をご説明いたします。資料の3ページをご覧ください。

注力領域の売上高は、前年同期比+44億円増加の95億円となりました。昨年度に引き続き、幅広い業種向けにDX関連ビジネスが堅調に推移したことに加え、AI関連の大型機器販売案件が当第1四半期にも計上されたことから、前年同期に比べ大幅な増収となっております。

なお、手数料型ビジネスにつきましては、QR・バーコード決済において取扱高が増加したことや、カーシェアを中心にモビリティサービスプラットフォームの利用が拡大している一方で、決済手段の多様化によりバリューカードの取扱高が若干減少している影響から、当第1四半期の売上高は前年同期並みの水準にとどまっております。

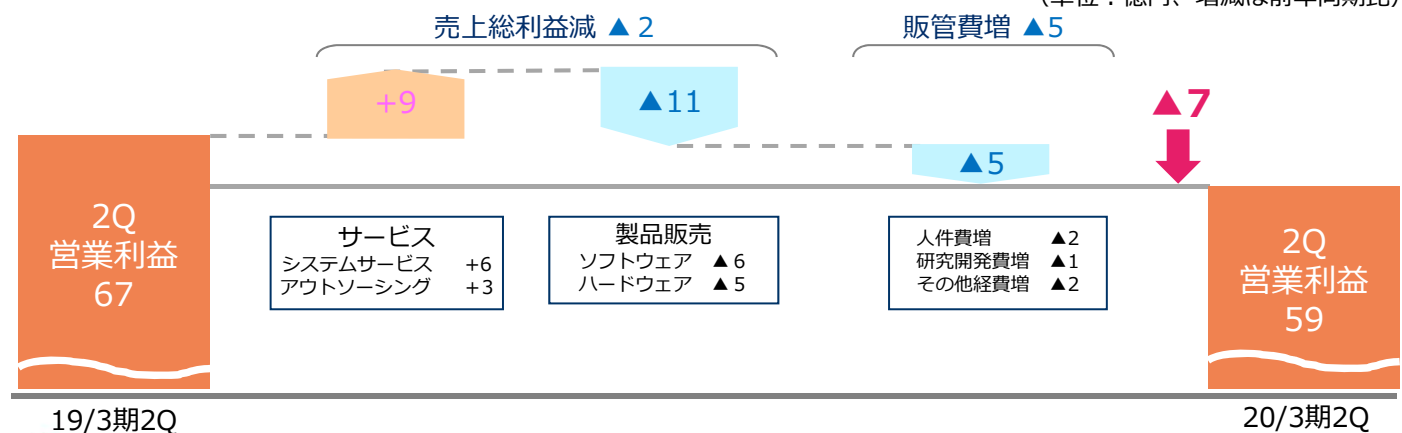
上期の売上高、営業利益、四半期純利益の予想は
公表値（5月9日）から変更なし

(単位：億円)

	20/3月期 1Q実績		20/3月期 2Q予想		20/3月期 上期予想	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	652	+81	718	▲49	1,370	+32
営業利益	31	+16	59	▲7	90	+9
親会社株主に帰属する 四半期純利益	26	+12	39	▲9	65	+3

* 上期予想の内訳は補足資料をご覧ください。
(単位：億円、増減は前年同期比)

【2Q(7-9月) 営業利益の増減分解】



続きまして、業績予想についてご説明いたします。
資料の4ページをご覧ください。

上期の売上高、営業利益、四半期純利益予想については、5月9日の公表値から変更
ございません。

第2四半期については、システムサービスを中心にサービスでの増益を見込む一方
で、製品販売では前年同期のメインフレーム案件の剥落を考慮した結果、売上総利
益は前年同期比▲2億円の減益。

販管費は人件費、研究開発費の増加等により▲5億円の増加を見込んでおります。
この結果、営業利益は前年同期比▲7億円の減益を予想しております。

なお、現在システム開発における懸念案件はないことから、第2四半期においては
不採算リスクを織り込んでおりません。

以上をもちまして、2020年3月期第1四半期 決算概要の説明を終了いたします。

Foresight in sight

UNISYS

(注意)

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。